

令和5年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立南蒲小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- (低) ・具体物の操作を通して、基礎・基本の定着を図ることができた。
- (中) ・習熟度に応じた指導を通して、基礎・基本の定着を図ることができた。
- (高) ・学習効果測定の平均正答率、達成率が向上した。
 - ・習熟度に応じた指導を通して、基礎・基本の定着を図ることができた。

(2) 課題

- (低) ・問題文の意味を読み取れずに正答できない児童が多い。
 - ・繰り上がりのあるたし算、繰り下がりのあるひき算の定着が不十分な児童が多い。
- (中) ・四則計算の定着が不十分な児童が多い。
 - ・「数と計算」「データの活用」の領域の習熟が不十分な児童が多い。
- (高) ・学習の定着が不十分な児童に学習意欲の低い児童が多い。
 - ・「数と計算」「データの活用」の領域の習熟が不十分な児童が多い。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第4学年	・教科全体の平均正答率が昨年度とほぼ変わらない。達成率については約1%減少した。	・全問を対象とする平均正答率が目標値より2.6ポイント高い。全国平均と比較して3ポイント、区平均と比較して3ポイント低い。 ・領域別では、「図形」、「測定」が目標値に比べて下回っている。	/
第5学年	・昨年度より教科全体の平均正答率が約4%向上した。達成率についても約2%向上した。	・全問を対象とする平均正答率が、全国平均と比較して8ポイント、区平均と比較して7ポイント低い。 ・領域別では、「変化と関係」、「データの活用」が目標値に比べて下回っている。	・基礎の校内平均正答率は80%を超えているが、活用は52%と低い。 ・図形の領域で54%と正答率が低い。
第6学年	・昨年度より教科全体の平均正答率が約3%向上した。達成率についても約5%向上した。	・全問を対象とする平均正答率が、全国平均と比較して14ポイント、区平均と比較して11ポイント低い。 ・領域別では、「図形」が目標値に比べて大きく下回っている。	・大田区学習効果測定の結果では、正答率が目標値や区の平均値から6～10ポイント下回っている。 ・領域別では、「図形」と「データの活用」が目標値に比べて大きく下回っている。

(2) 分析（観点別）

① 中学年

(第4学年)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・平均正答率は約76%で昨年度とほぼ変わらない。	・平均正答率は約56%で昨年度とほぼ変わらない。	・平均正答率が約75%で昨年度より約7%向上している

② 高学年

(第5学年)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・平均正答率は約68%で昨年度より約2%向上している。	・平均正答率は約61%で昨年度より約15%向上している。	・平均正答率が約60%で昨年度より約2%向上している。

(第6学年)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・平均正答率は約67%で昨年度より約5%向上している。	・平均正答率は約51%で昨年度より約10%向上している。	・平均正答率が約48%で昨年度より約19%向上している。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>◎習熟度に応じてクラス分けして授業を実施することで、個に応じた指導ができるようにする。</p> <p>・基礎的な問題の反復練習を行う時間を設け、学習の着実な定着に繋げていく。</p> <p>・定期的に補習教室を実施し、習熟が不十分な児童に応じた学習教材を準備する。</p>	<p>・児童が自分の考えを表現するときに必要な具体物や補助教材を用意する。</p> <p>・学習内容に適した発問を準備し、児童の考えを深めさせるようにする。</p>	<p>◎具体物を用いたり、遊び感覚で取り組めるような学習活動を準備したりすることで、算数が楽しいと実感できるような授業の工夫をする。</p> <p>・学習の定着が不十分な児童には、個に応じてスモールステップで課題を提示し、成功体験を積み重ねることができるようになる。</p>

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>◎習熟度に応じてクラスを3展開した授業を実施することで、個に応じた指導ができるようにする。</p> <p>・基礎的な練習問題を授業に取り入れ、学習内容の定着を図る。</p> <p>・タブレットドリルを活用し、一人一人の定着状況を把握し、指導に役立てる。</p> <p>・定期的に補習教室を実施し、習熟が不十分な児童に応じた学習教材を準備する。</p>	<p>・自分の考えを言葉で説明したり、式や図で表現したりする活動を積極的に取り入れる。</p> <p>・他者の考えをよりわかりやすく説明したり、他者の考えに対してどのように考えたか説明したりする機会を取り入れる。</p>	<p>・具体物を用いたり、遊び感覚で取り組めるような学習活動を準備したりすることで、算数が楽しいと実感できるような授業の工夫をする。</p> <p>◎学習の定着が不十分な児童には、個に応じてスモールステップで課題を提示し、成功体験を積み重ねることができるようになる。</p>

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>◎習熟度に応じてクラスを3展開した授業を実施することで、個に応じた指導ができるようにする。</p> <p>・基礎的な練習問題を授業に取り入れ、学習内容の定着を図る。</p> <p>・タブレットドリルを活用し、一人一人の定着状況を把握し、指導に役立てる。</p> <p>・定期的に補習教室を実施し、習熟が不十分な児童に応じた学習教材を準備する。</p>	<p>・正答に導くまでの過程をどのように考えたか、自分の考えを言葉で説明したり、式や図で表現したりする活動を積極的に取り入れる。</p> <p>・他者の考えをよりわかりやすく説明したり、他者の考えに対してどのように考えたか説明したりする機会を取り入れる。</p>	<p>・日常生活に生かすことができる活動を取り入れ、算数を学ぶことの必要性や意義を実感できるように授業を工夫する。</p> <p>◎学習の定着が不十分な児童には、個に応じてスモールステップで課題を提示し、成功体験を積み重ねることができるようになる。</p>